

## 第3章 第4次計画の基本方針

---

### 1 基本理念

乳幼児期に本を読んでもらった経験や、小中高校生時代に培った読書習慣は、その後の人生における読書活動の継続につながり、やがて子育て世代になったときに子どもへの読み聞かせにつながるなど、人生を豊かなものにするのはもちろんのこと、読書からはぐくまれる豊かさを次の世代が受け継いでいく上で、非常に重要なものです。

子どもが本に親しみ、生涯にわたり読書活動を継続していくようになるには、家庭、地域、学校、市図書館の協働による、子どもの読書環境づくりが欠かせません。

本は、子どもの日常生活の中で友だちのように身近な存在であり、心の成長において必要不可欠なものと考えます。子どもが本と出会い、読書を楽しむことによって、生きる力を付けてほしいという思いを込め、子どもが読書に親しむきっかけづくりや読書環境の整備を推進、充実することを目指し、次の基本理念を掲げます。

### **子どもの心を育てる 本は人生の友だち！**

この基本理念を実現するために、第3次計画で目標とした子ども読書活動推進の取組を引き継ぐとともに、これまでの取組の中で見えてきた課題や、計画期間中の社会情勢の進展に伴う新しい課題、また、「愛知県子供読書活動推進計画（第四次）」の基本目標「家庭、地域、学校等における取組の充実」「子供読書活動推進支援の一層の充実」を踏まえ、2つの基本目標と7つの施策により推進していきます。

## 2 基本目標

### I 家庭・地域・学校・市図書館における読書活動の推進

子どもの読書習慣は、日常的に本を読むことができる環境が整っていることで身に付けることができるものです。

そのため、家庭、地域、学校、市図書館がそれぞれの役割を認識し、子どもが読書に親しむ機会の充実を図ることが必要です。

子どもの読書活動の意義や重要性について、子どもを取り巻く全ての関係者の理解と関心を高めるよう、普及啓発事業を積極的に進め、子どもの自主的な読書活動に向けた取組を推進します。

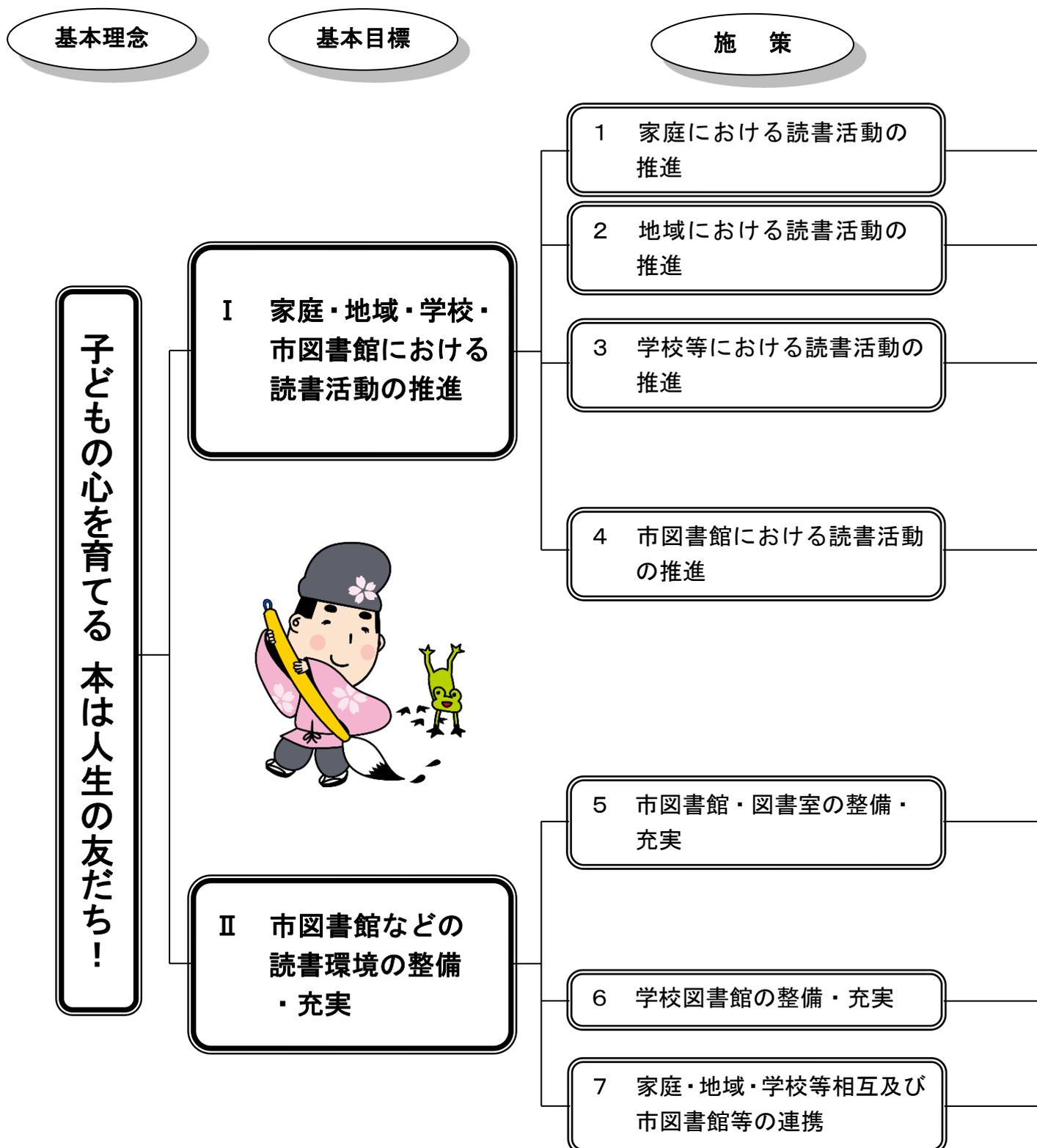
### II 市図書館などの読書環境の整備・充実

子どもが自主的に本を読むようになるためには、発達段階に応じて本に親しむことができるような環境づくりを進めることが必要です。

乳幼児期から発達段階に応じて、子どもが興味を持ち感動する本に出会えるような、読書環境の整備、充実を進めます。



### 3 施策の体系



## 具体的な取組

- (1) 乳幼児期からの家庭での読書活動の支援
- (2) 家読（うちどく）事業の啓発・推進【新規】
- (3) 児童館・公民館等における読書活動の推進
- (4) 放課後児童クラブ等における読書活動の推進
- (5) ボランティアの活動支援
- (6) 幼稚園・保育園等での読書機会の提供・充実
- (7) 学校での読書機会の提供・充実
- (8) 一斉読書を利用した読書習慣の確立と読書時間の確保
- (9) 授業等での読書の活用
- (10) 発達段階に応じた情報の提供や展示等の実施
- (11) 子どもが読書の楽しみに触れる機会の提供
- (12) 読書活動への奨励
- (13) 中学生・高校生等への学習機会の提供【新規】
- (14) ボランティア等の学習機会の提供
- (15) ボランティアの活動支援・育成
- (16) ボランティア等との協働・連携
- (17) 中学生・高校生の意見聴取
- (18) 市図書館・図書室の資料の充実
- (19) レファレンスサービスの充実
- (20) ホームページの充実
- (21) ティーンズコーナーの充実
- (22) 障がいのある子どもへのサービスの充実
- (23) 外国語資料等の収集と情報提供
- (24) 子どもや子育て世代向けのコーナーの充実【新規】
- (25) 読み聞かせ動画の配信【新規】
- (26) 電子書籍についての調査研究【新規】
- (27) 読書を楽しめる学校図書館の環境づくり
- (28) 計画的な図書の整備
- (29) 家庭・地域と学校図書館の連携
- (30) 市図書館と学校等の連携
- (31) 市図書館と図書室の連携
- (32) 他公立図書館等との連携